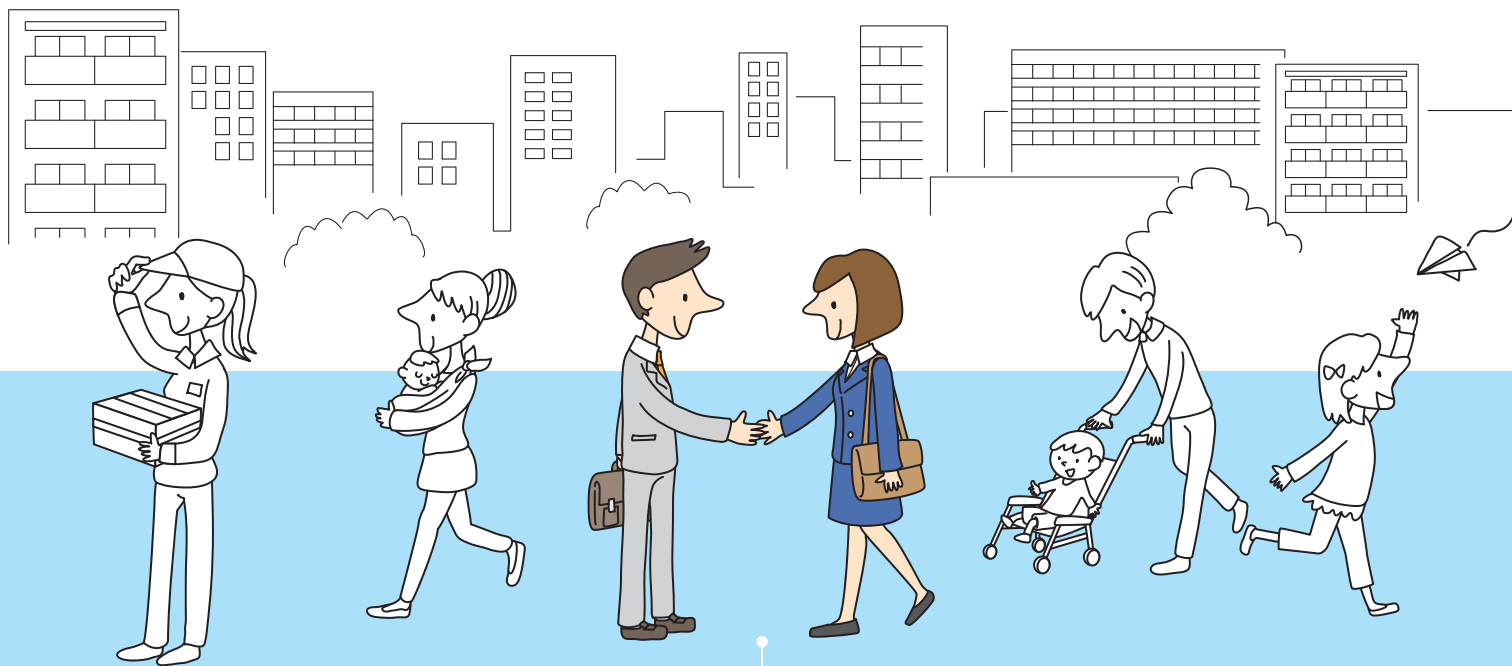


# きずな

2012年  
(平成24年)

6



6月

男女雇用機会均等月間

1985(昭和60)年6月1日に男女雇用機会均等法が公布されたことを記念して、翌年6月から男女雇用機会均等月間と定められました。職場での男女均等に対する認識と理解を深めることを目的に、さまざまな活動が展開されています。

## 特集テーマ 男女共同参画

# 自分らしく生きるために

- 2 「好きな色」をテーマに  
人形劇が描く認め合う心  
明石市男女共同参画課、  
絵本楽しみ隊フルーツパフェ(明石市)
- 3 男女共に、仕事と生活の調和を  
ワーク・ライフ・バランス  
- 尊いいのちを次代につなぐ生活の確立へ -  
高島進子さん(神戸女学院大学名誉教授)
- 4 母子世帯を受け入れて  
自立に向けた支援を  
兵庫県母子生活支援施設協議会
- 5 子どもたちに笑顔と元気を届ける  
赤鼻のクラウン  
熊谷恵利子さん(認定クリニックラウン)
- 6 カフェで社会に出るための"予行演習"を  
尼崎市女性センター・トレピエ(尼崎市)
- 7 ふれあいサロン
- 8 情報ぷらざ



# 男女共同参画

## 「好きな色」をテーマに 人形劇が描く認め合う心

明石市男女共同参画課、絵本楽しみ隊フルーツパフェ(明石市)

### 自分らしさを色に例え

明石市では2010(平成22)年6月、男女共同参画の視点を取り入れた人形劇「カリンのあたらしいおうち」を制作。市内で絵本の読み聞かせ活動をしている絵本楽しみ隊フルーツパフェが上演会を開いています。

物語は、新しい貝殻を探しているヤドリの子、カリンが主人公。本当は青が好きなのに、周りの反応を気にして素直に言えないでいます。そんな中、性別に関係なく、堂々と自分が好きな色を話す海の仲間たちに出会います。

シナリオを手掛けたのはイラストレーターの大野勢津子さん。大野さんが色に注目したのは、以前、小さな子どもを持つ知人から「文房具などは男の子色、女の子色に分けられていて、子どもが好むものが見つかるとは限らない」と聞いたことが印象に残っていたからといいます。



人形劇の後も塗り絵や歌で楽しいひとときを提供しています



絵本楽しみ隊フルーツパフェのメンバー。手作りの人形は愛らしく、明石ならではのタコやタイも登場

上演会や絵本についての問い合わせ  
明石市男女共同参画課  
8:55 ~ 17:40(月曜休) TEL 078(918)5611

### 好評につき絵本化も

フルーツパフェの代表、宮崎俊子さんは「上演を重ねるたび、作者の意図が深く理解できるようになりました。毎回、子どもたちの顔を見ると、何かしらの発見があります」と話します。

人形劇の後は、親子が楽しめる時間も設けています。塗り絵をしながら、あちこちから親が子どもに「自分らしさ」について話す声が聞こえてくるそうです。

明石市では上演会の好評を受け、カリンの絵本も発行。市内の幼稚園や小学校、図書館などに配布しています。



絵本も人気を集めています

兵庫県では、性別にかかわらず、誰もが社会参画できるよう、あらゆる場での男女共同参画を推進しています。しかし、女性に対する暴力やセクハラなどの人権侵害のほか、「男は仕事、女は家事」といった固定的な性別役割分担意識が低下傾向にあるものの、いまだ根深く残っています。今月は、男女が共に力を合わせ、互いに人権を尊重し、個性や能力を十分に発揮できる社会の実現に向けて、県民一人ひとりが何をすべきか考えてみましょう。

## メッセージ

# 男女共に、仕事と生活の調和を

ワーク・ライフ・バランス  
— 尊いいのちを次代につなぐ生活の確立へ —

神戸女学院大学 名誉教授

高島 進子 さん  
たかしま のぶこ



## 生きづらさを感じる社会

戦後、男女共学によって培われた女性の自立への志は、国際的な動きと連動しながら、女性の社会的活躍を支える法制度や支援策を整えていき、今では女性が外で働くことは当たり前のことになりました。とはいえ、その6割は出産で仕事をいったん辞めています。そこには、なお男性優位／優先の職場慣行の下での仕事と育児の両立の不安に加え、それを身近かで見守る人とのつながり、とりわけ子どもを共に授かり、その苦楽を共にするはずのパートナーの不在という現実があります。女性の継続就業が難しい今、子育て世代の女性の高い働く意欲は、活かされな

いまま潜在化しています。さらに、子育て後再就業する女性の多くは非正規雇用です。家計補助

労働として、それは特に女性の一つの選択肢ともされますが、その生活にさまざまな事情で変化が起きた場合、その後の生活の安定は必ずしも約束されません。今日、社会を縁の下で支えながら、それが自らの生活設計に結び付かず、社会とのつながりの実感もないまま雇用の調整弁・人件費削減要因として働く多くの非正規労働者の問題は無視できません。

女性の働き方、生き方は、すでに一つではなく分化しています。それは社会／文化に帰因するところも大きく、断念や諦めが交錯する生きづらさを感じている人は少なくありません。

## 男女協働で生きがいのある生活を

社会の健全な持続性の基盤は、誰

もが、誰にも遍く当たり前で普通の生活を保てることにあります。すでに、明治期、森鷗外は小説「青年」の中で日本近代の危うさを看過して、日本人は生活というものを、学校を出た後、さらに仕事を終えたその先にあることと書いている、と書いています。生活とは、文字通り生を活かすこと。一生を貫いて、いま、ここに日々展開されている、生命と生命が互いに活かし活かされるが、さらにその共同生活の中で生命をつないでいく営みであり、個々人の人生そのものです。それは、男女共通の人間らしさ／社会性と仕事への意欲と活力、想像力・創造力が涵養される源泉です。生活と仕事は、相互に作用しあいながらその双方に相乗効果をもたらすはずで

す。社会／文化の高度化に伴う価値観・生き方の多様化とともに、往時

に比べ人間関係も希薄な職縁だけに生きようとする男性は減りつつあります。男性の感性や思考、行動様式の変容は、職場慣行の見直しとともに、男女共の生きづらさを解き、男女共の生活と仕事の調和への推進力です。社会との、人とのつながりに裏打ちされた個人の尊厳の尊重と、男女協働で生きがいのある生を次代につなぐ生活の確立は、人口減少社会の課題でもあります。

## プロフィール

1938(昭和13)年、尼崎市生まれ、北京、東京で育つ。関西学院大学大学院社会学研究科博士課程修了。専攻は文化社会学・教育社会学。著書は「自然と歴史・文化社会学論集」「女子教育、再考」2知の贈りもの(共著)など。男女共同参画社会づくり功労者内閣総理大臣表彰、社会教育功労賞(文部科学省)等受賞。



# 母子世帯を受け入れて 自立に向けた支援を

## 兵庫県母子生活支援施設協議会

### 入居者の背景はさまざま

兵庫県母子生活支援施設協議会は県内13カ所にある母子生活支援施設（母子ホーム）のうち、神戸市以外の6施設を取りまとめる組織です。母子ホームは、18歳未満<sup>※2</sup>の子どもを養育している母子家庭、または何らかの事情で離婚の届出ができないなど母子家庭に準じる家庭の母親と子どもが一緒に利用できる施設です。全国



約270施設に約4000世帯の母子が入所しており、職員は相談や援助を通して、母子の心身と生活を安定させ、自立を支援しています。

「かつては、経済的な理由で家が借りられない<sup>※1</sup>、住居課題<sup>※1</sup>の入所者が多かったのが、近年はさまざまな<sup>※1</sup>生活課題<sup>※1</sup>を抱える入所者が増えてきました」と同協議会の会長、前川幸夫さん。「母子ホームの職員には、母子それぞれが抱える悩みに的確に対応できる力量が求められています」と話します。

### 外部と連携しながらの支援も

母子家庭をめぐる経済面や就労面の課題は深刻です。経済的な困窮やDV被害、それらを原因とする睡眠障害、摂食障害、対人恐怖、リストカット、オーバードーズ（薬物過剰摂取）、育児不安、ネグレクト、アルコール依存、多重債務のほか、離婚調停・裁判、外国籍の母子などさまざまあり、母子ホームは課題解決に向けてサポートしているものの、対応しきれないケースもあります。

そこで最近、取り組み始めたのが、関係機関

や団体とのネットワークづくりと母子ホーム職員の質的向上です。母子の心のケアをするため、臨床心理士の資格を取得した職員もいる一方で、外部の専門家とも協力しながらカウンセリングを行っています。

入所者のある女性は複雑な家庭環境で育ち、中学校にもあまり通えませんでした。だからこそ、わが子の勉強はしっかり見てあげたいと、通信制の高校に入り、仕事から戻った後にはホームの職員から学習のポイントを聞いているそうです。「入所者の頑張っている姿を見ると、ホームが果たす役割の重要さをあらためて実感します」と前川さん。「ホームにたどり着いた人は、ギリギリの状態で踏ん張れた人。一人でも多くの人が孤立に陥らないよう支えたいです。県民の皆さんにも母子支援の現状と必要性を正しく理解してもらいたいです」と切々と語ります。

※1 神戸市内の7施設は神戸母子生活支援施設協議会が管理

※2 特別な事情がある場合は子どもが満20歳になるまで利用可能

母子生活支援施設（母子ホーム）についての問い合わせは最寄りの福祉事務所へ。



取材ノート  
から

# 子どもたちに笑顔と元気を届ける 赤鼻のクラウン

熊谷恵利子さん（認定クリニックラウン）



赤鼻のクリニックラウンの登場に病室の子どもは大喜び（左が熊谷さん）

## 先行事例のない中で

クリニックラウンとは、病院を意味する「クリニック」と道化師の「クラウン」を合わせた造語。入院生活を送る子どもたちの病室を定期的に訪れ、遊びと元気を届け、笑顔を育む臨床道化師のことです。現在、NPO法人日本クリニックラウン協会が認定するクリニックラウン（臨床道化師）は15人おり、熊谷恵利子さんもその一人です。

神戸市在住の熊谷さんは学生時代からパントマイミストとして活躍。その後、男女共同参画センター等の職員として、子どもや女性の人権について向き合う中、子どもも大人も元気になる仕事がないかと考え、行き着いたのがクリニックラウンでした。

クリニックラウンは、病室に入ると瞬時に状況判断し、表現活動することが求められます。そのため厳しい訓練を経て初めて認められます。病院への訪問時には、あらかじめ、子どもの療育状況について医師たちと十分に打ち合わせを行うなど、連携を図り、チーム医療

の一員として活躍します。こうした活動について、熊谷さんは「子どもが、その子らしく過ごせる時間の大切さと責任を感じる」と言っています。

## 東北の被災地にも

熊谷さんたちは東日本大震災後、東北大学病院や宮城県立こども病院などにも定期的に訪問しています。あまり笑わなくなった子どもたちも、気さくにふれあうことで、初めは恥ずかしさから親の後ろに隠れていた子どもが、次第に顔を出し、大きな声で笑うように変化していきます。中には「今度、いつ来てくれるの」と声を掛けてくる子も。保護者も子どもの変化に喜び、いつの間にか病室全体が温かい雰囲気になっていくそうです。

2009（平成21）年からは、NPO法人日本クリニックラウン協会の事務局スタッフとなり、啓発事業など活動継続のための運営基盤づくりに奔走しています。

熊谷さんは、こうした活躍が評価され、兵庫県が県内の活躍する女性に贈る「第9回ひょうご女性未来・<sup>はなだ</sup>繚賞」を受賞しました。

### クリニックラウンについての問い合わせ

NPO法人日本クリニックラウン協会  
大阪市港区築港3-7-15 港振興ビル305-A  
TEL/FAX 06 (6575) 5592



東日本大震災では多くの尊い命が失われましたが、一方で多くの新しい命が生まれました。震災直後、医療器具も何もない民家から産したお母さん、毎日避難所から病院へ母乳を届けたお母さん、連絡の取れない家族がいながらも目の前の妊婦と赤ちゃんのために活躍する助産師……。本書には、大変な状況下で出産しながらも、わが子を必死に守り通した母親と、それを懸命に支えた周囲の人々の様子が描かれています。

人が命をどのようにして守り、支えていくか。放射能の不安を抱きながらも地域の医療を守るため苦悩する福島の医師たちの姿にも考えさせられるものがあります。

「あの日に生まれてきた命  
宮城、福島で命をはぐくむ  
お母さんの奇跡」

鮫島浩一監修（アスペクト）



きずなフリーブライリー  
おすすめの一冊



## カフェで社会に出るための“予行演習”を 尼崎市女性センター・トレピエ (尼崎市)



研修生たちはカフェで働きながら自立への自信を深めていきます。スタッフのブログ(<http://cafetrepied.blog.fc2.com/>)では新メニューやイベントなどの情報を発信中

### 尼崎市女性センター・トレピエ

尼崎市南武庫之荘 3-36-1

開館時間／9:00～21:00(日曜は17:00まで)

休館日／月曜、祝休日、年末年始

TEL 06(6436)6331 FAX 06(6436)5757

尼崎市女性センター・トレピエ

検索

女性の自立支援や社会参加の促進には就労支援が重要な課題です。昨年10月、尼崎市女性センター・トレピエは就労支援の一環として、しごとが体験できる喫茶店「カフェ・トレピエ」をオープンしました。

センターではパソコン講座や各種資格取得講座、相談事業など、多彩な就労支援活動を展開していますが、新しい知識や技能を身に付けてもすぐに実社会でうまくスタートが切れるとは限りません。カフェは講座の受講生らを研修生として採用し、仕事に慣れてもらうことで就労につなげるのがねらいです。

センター所長の森屋裕子さんは「特に

若い女性の中には、一度社会に出たものの対人関係でのつまずきから仕事を辞めた人や、長期間仕事を離れていたために復帰に時間がかかる人が多くいます。カフェでの仕事を通して自信をつけてもらえれば」と語ります。

研修期間は原則として半年。その間、研修生たちは講座などで学んだ技術も生かしながら、店の運営や経理、接客など幅広くこなします。オープンから半年が過ぎ、創意工夫を凝らした店づくりは好評といます。センターではカフェを就労を目指す女性たちが集まり、仕事に関する情報交換やパワーアップできる場になっていきたくと考えています。

## じんけんガイド

### 県立男女共同参画センターに「女性就業相談室」を開設

県立男女共同参画センター・イーブンでは、出産や育児等で離職後、再就業を希望する女性が、子どもを預け、安心して相談や情報収集ができる「女性就業相談室」を5月に開設しました。女性就業支援員と保育支援員を配置し、グループ相談会や個別相談に始まり、再就職や起業、在宅ワークなどのセミナーを経て就業につなげる「ひょうご女性再就業応援プログラム」により切れ目のない支援を行います。

#### 女性就業相談室の特徴

- ①一時保育付きの相談体制⇒子連れでも安心して利用できます
  - ・個別の「チャレンジ相談」を実施(毎週木曜)
  - ・グループでの「ママの働き方相談会」を開催(月2回)
- ②年間スケジュールを明示⇒計画的に利用できます
  - ・一時保育付きの「短期集中パソコン講座」を開催(年4回)
  - ・一時保育できない乳児連れで参加できる「ママの子連れセミナー」を開催(年8回)
- ③出前相談や出張セミナーを充実⇒最寄りの地区で参加できます
  - ・市町チャレンジひろばで出前チャレンジ相談を実施(年84回)
  - ・「ママの働き方相談会」を出張開催(年17回)
  - ・「ママの子連れセミナー」の出張開催(年22回)
- ④ハローワークと連携した企業面接会を実施(年1回)

〔図〕兵庫県立男女共同参画センター・イーブン

神戸市中央区東川崎町 1-1-3 神戸クリスタルタワー 7 階

TEL 078(360)8550 FAX 078(360)8558

兵庫県立男女共同参画センター

検索



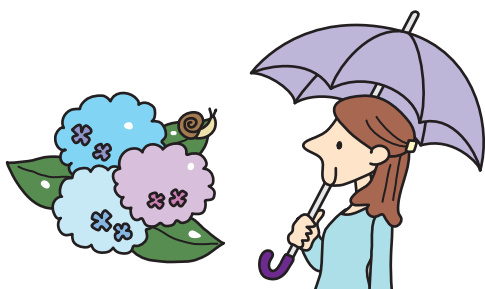
## 読者からのお便り

●3月号の「多文化共生のまちづくりに向けて」の記事を読み、21世紀の大きな課題として、国籍や民族の異なる人々が共に生きていくことの大切さを強く認識しました。  
(赤穂市・藪林定美さん)

●日本語の学習支援にボランティアが活躍されていると知りました。私は、これからの日本は外国人の協力なしに震災復興や経済発展などはなし得ないと考えているので、とても重要なことをされていると感じました。記事を読まなければ、このような活動がされていることを知らずに過ごしていたと思います。今後ますますボランティアの必要性が出てくると考えています。  
(奈良県・豎川俊さん)

●仕事をしていたころは、たくさんの出会いを通して人々との交流の大切さを学びました。「きずな」を読んで、あらためて身近な人との絆を深めていこうと誓いました。  
(伊丹市・松浦洋子さん)

「きずな」のバックナンバーは、当協会または各市町の人権啓発担当部署にお尋ねください。



クロスワードを解いて、A～Lの文字を順番に並べると、  
何という言葉になるでしょう？



カギ  
タテの

- 1 女性と男性が〇〇〇を合わせてこそその社会です
- 2 りりしいさま。〇〇として生きる
- 3 〇〇奮迅の活躍
- 4 育児に積極的な男性
- 6 チームをまとめて率いる指導者
- 7 〇〇せぬ出来事にも柔軟に対応したい
- 9 最後に華々しく活躍する場面
- 10 事を行うのに適当なころあい。〇〇〇をはかる
- 11 ある事柄に特に詳しい人。「事情〇〇」
- 12 もはや一刻の〇〇〇も許されません
- 14 益のないこと。〇〇な役回りにもめげないで
- 15 手柄。〇〇を急ぐ必要はありません

ヨコの  
カギ

- 1 積もれば山となります
- 4 自分が思ったことをどこまでもやり通そうとする気持ち
- 5 組織の中で部下を管理、監督する立場にある職種。女性の登用率の向上が求められています
- 8 物事の真偽を最終的に決定するためのよりどころ
- 9 何も履いていないこと。また、その足
- 10 公の場での携帯電話は、〇〇〇モードにしておきましょう
- 13 情報を得るために細かく張り巡らされている〇〇の目
- 14 目的通りに成し遂げて良い結果を得ること
- 16 全員〇〇〇〇となって事に当たりましょう
- 17 〇〇曲折がありました

〈3月号の答え〉コクサイコウリュウ(国際交流)

お便り掲載者

クロスワード正解者(抽選)

ボールペン&シャープペンシルをプレゼント!

「読者からのお便り」の投稿掲載者(8月号に掲載)とクロスワードの正解者(抽選で15人)に特製ボールペンとシャープペンシルのセットをプレゼント。本誌「きずな」のご意見やご感想、人々とのふれあいを通した心温まるエピソードなどを募集しています。どしどしご投稿、ご応募ください。※投稿はペンネームの使用も可能です ※当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます



### ■応募方法・締め切り

はがきかファクス、メールで受け付け。クロスワードの答え、郵便番号・住所、名前(ペンネームを使用する場合も要併記)、電話番号、年齢、職業、本誌へのご意見・ご感想を書いてください。7月3日(火)締め切り(必着)

### ■応募先

〒650-0003 神戸市中央区山本通4-22-15 県立のじぎく会館内  
(公財)兵庫県人権啓発協会「きずな編集室」

TEL 078(242)5355 FAX 078(242)5360 ✉info@hyogo-jinken.or.jp



## 著名人のメッセージパネルを 人権啓発の催しに貸し出します

(公財)兵庫県人権啓発協会では、人権を身近に感じていただきたいという願いを込め、各界で活躍中の著名人から人権に関するメッセージをいただき、パネル「ハートフル・メッセージ」を作成しています。現在、パネルは114枚あり、県内の人権啓発の催しに貸し出しています。

### ●貸し出しについて

対象／県の機関、県内の市町、人権啓発関係団体など  
 期間／原則として2週間以内  
 費用／無料(送料は自己負担)  
 方法／啓発・研究部に電話予約のうえ、指定の申請書を提出  
 ※詳しくは協会ホームページをご覧ください  
 図 (公財)兵庫県人権啓発協会啓発・研究部  
 TEL 078(242)5355



### イベントガイド

|                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|---------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>神戸地方法務局・兵庫県人権擁護委員連合会<br/> <b>全国一斉</b><br/> <b>「子どもの人権110番」強化週間</b></p> | <p>人権擁護委員・法務局職員が「いじめ」や児童虐待など、子どもに関するさまざまな人権問題について電話相談を受け付けます。秘密は厳守します。<br/> <b>●期間</b>／6月25日(月)～29日(金)8:30～19:00、30日(土)・7月1日(日)10:00～17:00<br/> <b>●相談電話番号</b>／TEL 0120-007-110(全国通話無料)</p>                                                                                                                                                                                      |
| <p>川西市<br/> <b>人権学習市民講座</b></p>                                           | <p><b>●日時</b>／①6月6日(水)②13日(水)③20日(水)13:30～15:30 ※申し込み不要<br/> <b>●場所</b>／川西市総合センター3階体育室 ※阪急・能勢電鉄「川西能勢口」駅から徒歩約8分<br/> <b>●内容</b>／講演会「光を求めて」<br/> <b>●講師</b>／①枘田ふみさん(NPO法人おかえり理事長)、②栗木剛さん(mottoひょうご事務局長)、③島田妙子さん(㈱イージェット代表取締役)<br/> <b>●問い合わせ</b>／川西市人権推進課 TEL 072(740)1150</p>                                                                                                     |
| <p>こうべ男女共同参画<br/> <b>たまご塾 2012</b></p>                                    | <p><b>●日時</b>／6月13日(水)13:30～15:30 ※要申し込み(先着順)<br/> <b>●場所</b>／神戸市男女共同参画センター<br/>                 ※市営地下鉄「大倉山」駅から徒歩約3分、同「ハーバーランド」駅から徒歩約7分、JR「神戸」駅から徒歩約7分、神戸高速鉄道「高速神戸」駅から徒歩約3分<br/> <b>●内容</b>／さまざまな分野の男女共同参画について学ぶ連続基礎講座(第1回)<br/> <b>●テーマ・講師</b>／「災害からみえる課題、男女共同参画の視点から」<br/>                 相川康子さん((特活)NPO政策研究所専務理事・主任研究員)<br/> <b>●問い合わせ</b>／神戸市男女共同参画センター TEL078(361)6977</p> |

### ハーフ タイム

以前、男女共同参画の視点から東日本大震災の支援の在り方を考えることをテーマにしたフォーラムに参加しました。実際、ボランティアとして被災地で活躍された方の話を聞くと、「あっ、そうか!」と思わず気付くことがあります。例えば、洗濯ボランティアや避難所での化粧品の配布などです。5月号のハーフタイムで書いた、鎌田實さんの「相手の立場に自分を置いて考える」ことの一端がこうしたところにも当てはまるのだと痛感しました。(田中)